

ローバースカウト ハンドブック

ROVER SCOUT HANDBOOK



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN

ROVER SCOUT HANDBOOK

ローバースカウト ハンドブック

CONTENTS

はじめに

1	スカウト運動がめざすもの	02
2	ローバースカウト活動とは	03
3	ローバースカウトの活動	06
4	個人の成長のための支援	17
資料	・フォーマットと活用例	12
	・参考文献	19

はじめに

このハンドブックは、ローバースカウト活動において、それぞれの立場で活動し、仲間とともに展開・発展させるための入門書として書かれています。まずは、手に取りここに書かれていることを理解することから始めていただきたいと思います。

現代社会において、スカウティングの世界的な潮流は、社会課題への対応に向かって進んでいます。日本のスカウティングにおいてもこれは重要課題として取り組むべきことです。

スカウトの最終段階のローバースカウト諸君が、これまでに培ってきたスカウティングスピリット、そして知識や技能を十分に活かす機会として様々な社会課題への取り組みを志すことは大変重要なミッションであると位置づけています。

スカウティングが目指すものについて、さらに深く考え、スカウトの皆さんが何らかの行動に移す契機となるよう、このハンドブックを有効に活用していただければ嬉しいです。より良き社会を創造するために、今後も一層の成長を心から願っております。

ちかい

私は名誉にかけて次の三条の実行をちかいます。

- 一、神(仏)と国とに誠を尽くしおきてを守ります
- 一、いつも他の人々をたすけます
- 一、からだを強くし心をすこやかに徳を養います

おきて

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 スカウトは誠実である | 5 スカウトは快活である |
| 2 スカウトは友情にあつい | 6 スカウトは質素である |
| 3 スカウトは礼儀正しい | 7 スカウトは勇敢である |
| 4 スカウトは親切である | 8 スカウトは感謝の心をもつ |

モットー

そなえよつねに

スローガン

日日の善行

1 スカウト運動がめざすもの

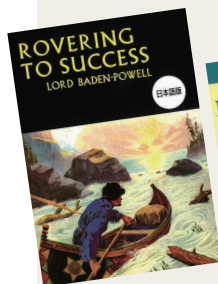
ベーデン-パウエル卿(以下、B-P)が100年以上前に創始したスカウト運動は、すべての青少年に公平に開かれた非政治的な教育運動で、現在(2024年1月)では、174の国と地域で5,700万人のスカウトが活動する世界最大級の青少年教育運動です。

スカウト教育は、「ちかい」と「おきて」の実践を通じて社会に貢献することを基本とし、学校教育、家庭教育を補完するノンフォーマル教育と位置づけられ、「日日の善行」を実践する「よき社会人」の育成を目指しています。

B-Pの死後に発見された、スカウトに宛てた「ラストメッセージ」には、「自分が幸せを手に入れる真の方法は、他人に幸せを分け与えることである」と書かれています。

モットーである「そなえよつねに(Be Prepared)」は、我々スカウトは、世のため人のためにいつでもどんなことでも役に立てるように準備をしておくという姿勢を示しています。

Be Prepared



B-Pは1922年に『ローバリング ツウ サクセス (Rovering to Success)』を出版し、真の成功とは“幸福”であり、そしてその“幸福”とは何かを説いています。その中でB-Pは人生を常に前方に目を光らせ前へ進む“カヌー”による航海に例え、「自分のカヌーは自分で漕げ」という表現を引用して、困難を乗り越え自分自身の人生を切り拓くことを伝えています。

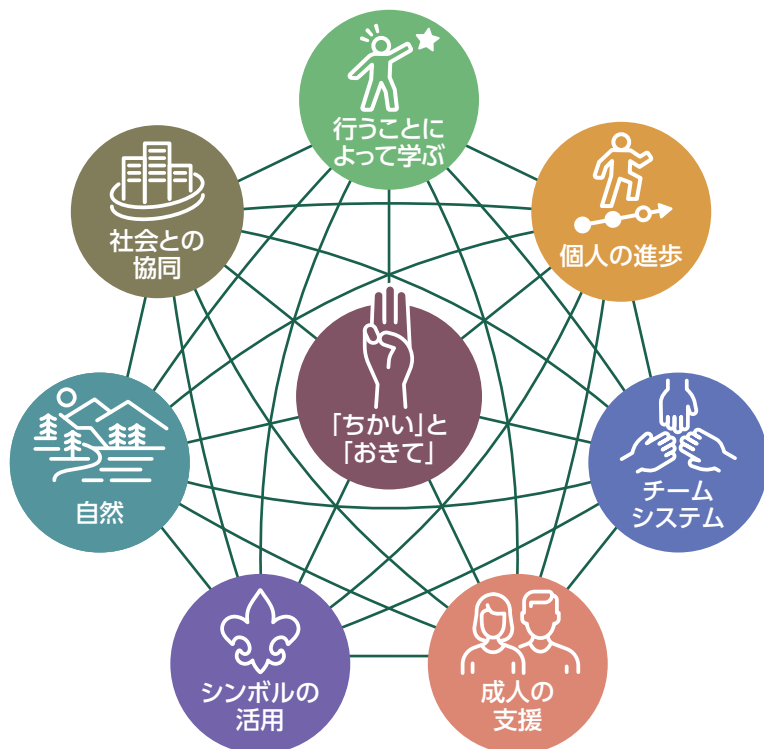
日本連盟初代総長 後藤新平が残した「自治三訣」もスカウティングの行動原理を端的に表した言葉です。

自治三訣
人のおせに
わが世話を
すまやう
もてまひを
もたぬやう
大正五訪林
新平

2 ローバースカウト活動とは

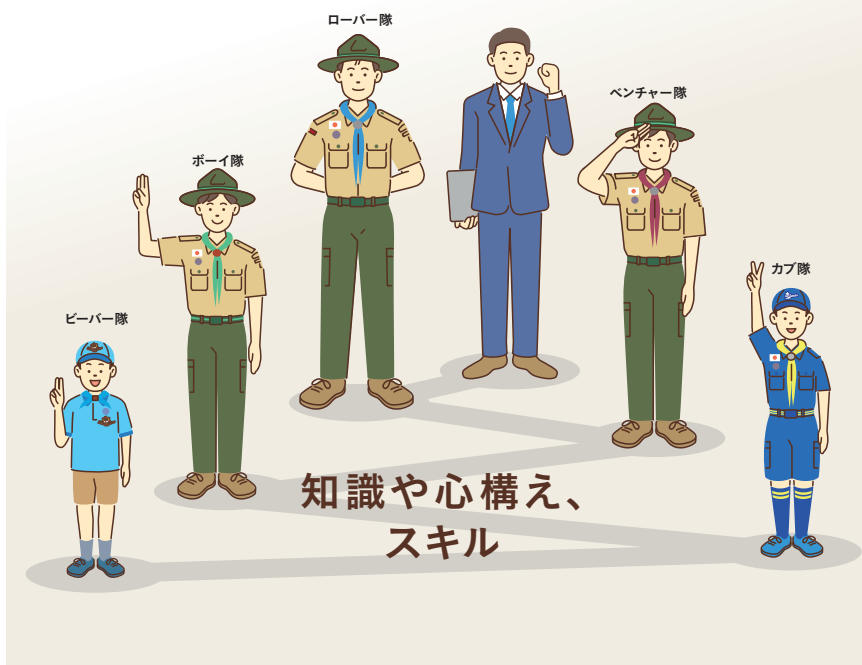
ローバースカウト年代は、スカウト教育の集大成の時期であり、自己を確立し、社会貢献や運動への奉仕を積み重ね、「よき社会人」(永続的に社会に貢献できる責任ある市民)として活躍するための最終段階です。スカウト教育では全部門かつ世界中でスカウト教育法の8つの要素を取り入れることを特徴としており、その中心にあるのが「ちかい」と「おきて」です。

世界共通のスカウト教育法の8つの要素



「ローバー」という言葉は「さまよい歩く人」を語源としていますが、ローバースカウト活動は、目的なくさまようことではなく、まだ見えない目的地を目指し、「意志」(社会的使命/ミッション)をもって、信じた道を自分自身の力で突き進むことです。言い換えれば、これまでのスカウト活動や人生経験の中で培った、知識や心構え、スキルを駆使し、さらに新たに身につけて、地域社会はもとより、日本や世界で役立つように、行動することです。

スカウト活動や人生経験



教育課程 7-30

ローバースカウトの教育

ローバースカウトの教育は、「ちかい」と「おきて」の実践によって自ら有為の生涯を築き、各人がそれぞれの社会的環境において、永続的に地域社会・国際社会に貢献できる責任ある市民となる青年を育成することを目指すものとする。

経済産業省の調査では次の社会を形作る若い世代に対しては、「常識や前提にとらわれず、ゼロからイチを生み出す能力」「夢中を手放さず一つのことを掘り下げていく姿勢」「グローバルな社会課題を解決する意欲」「多様性を受容し他者と協働する能力」といった、根源的な意識・行動面に至る能力や姿勢がより一層求められています。

56の能力等に対する需要

現在は
「注意深さ・ミスがないこと」、
「責任感・まじめさ」が
重視されるが…、

将来は
「問題発見力」、
「的確な予測」、「革新性」が
一層求められる。

2015	
注意深さ・ミスがないこと	1.14
責任感・まじめさ	1.13
信頼感・誠実さ	1.12
基本機能(読み、書き、計算、等)	1.11
スピード	1.10
柔軟性	1.10
社会常識・マナー	1.10
粘り強さ	1.09
基盤スキル※	1.09
意欲積極性	1.09
⋮	⋮

※基盤スキル: 広く様々なことを、正確に、早くできるスキル

2050	
問題発見力	1.52
的確な予測	1.25
革新性※	1.19
的確な決定	1.12
情報収集	1.11
客観視	1.11
コンピュータスキル	1.09
言語スキル: 口頭	1.08
科学・技術	1.07
柔軟性	1.07
⋮	⋮

※革新性: 新たなモノ、サービス、方法等を作り出す能力

(注) 各職種で求められるスキル・能力の需要度を表す係数は、56項目の平均が1.0、標準偏差が0.1になるように調整している。

(出所) 2015年は労働政策研究・研修機構「職務構造に関する研究II」、2050年は同研究に加えて、World Economic Forum “The future of jobs report 2020”、Hasan Bakhshi et al., “The future of skills: Employment in 2030”等を基に、経済産業省が能力等の需要の伸びを推計。

ローバースカウト活動によって、「目標に向かって人とコミュニケーションをとりながら進めていく力」、「新しいものを作り出して行く力」などをより一層高めることができます。

「ちかい」と「おきて」は不変ですが、現在の社会環境や情勢においても、ローバースカウト活動は社会にとって有為な人材となることにつながっています。

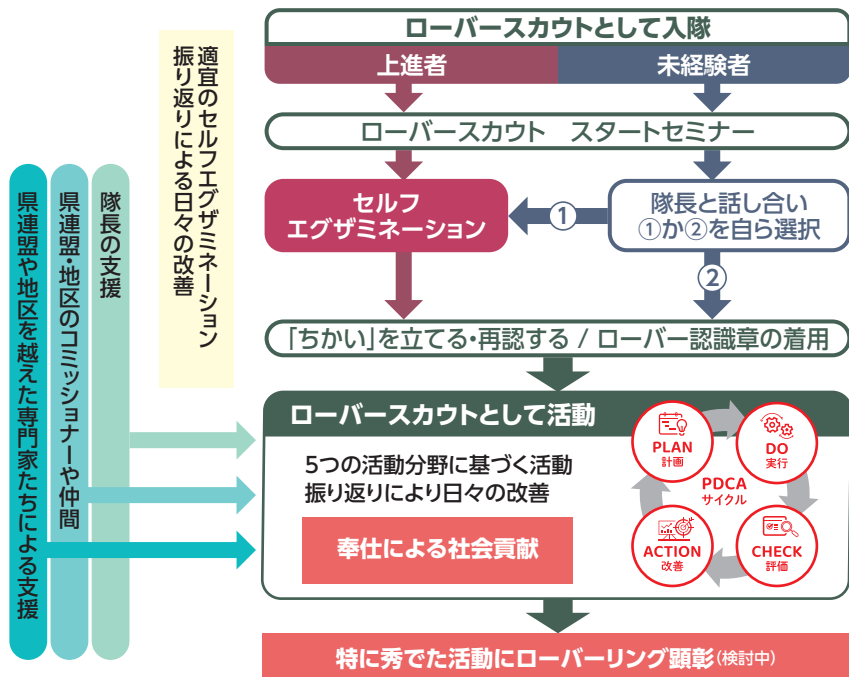
3 ローバースカウトの活動

3-① 活動形態

ローバースカウトの活動は、スカウト個人・隊・活動チームによる、自己研鑽と奉仕活動その他の社会活動で構成されます。隊には地域隊、大学ローバー隊などの形態があります。活動チームは隊の中だけでなく団・県連盟をまたいで編成することができます。

活動は目標をもって自分たちで展開していきます。また、ローバースカウト年代においては、成人期や社会人の時期へ向けて成長していくことに関連していなければなりません。自己の成長を考慮に入れ、「個人の活動プラン」を自分自身で計画して活動します。同時に、活動に際しては隊指導者のアドバイス・承認を得ます。特に隊や団を超えて活動する際には当該相互の隊指導者の事前承認を受けて活動してください。

3-② 活動の流れ



●活動のスタート

まずはスカウト運動とローバースカウト活動の概要を学ぶ、ローバースカウトスタートセミナーを受講しましょう。その後、スカウト経験のない者はローバースカウトの活動を体験し、「ちかい」をたてます。スカウト経験のある者はセルフエグザミネーションを実施し、「ちかい」を再認します。未経験者においてはセルフエグザミネーションを「ちかい」をたてる前に実施するかは指導者と話し合い決定します。その後、ローバー認識章を着用して活動します。

●ローバースカウトの活動

ローバー認識章着用後のローバースカウトの活動は、個人の成長をベースにした主体的なプロジェクトとなります。プロジェクトとは、明確な目標、期間などを自ら設定し、そのための具体的な方法を計画し、実施し、評価反省をするという一連のサイクルのことを指します。活動の振り返りは、単に活動だけの評価でなく活動を通しての自分の成長、知識、技能、心構えの成長を含み、自分を見つめなおす機会になります。詳しくは次のページ以降で説明します。



●ローバーリング顕彰(検討中)

活動したローバースカウトのプロジェクトに対して、特に顕著な活動報告に対して功績をたたえ、日本連盟内に広く知らせしめ、ローバースカウト活動を活性化するため、ローバーリング顕彰を検討しています。



セルフエグザミネーション

セルフエグザミネーションは、自分のこれまでの活動・人生を振り返って、今後の人生のために何をすべきか考える機会です。「ちかい」と「おきて」をもとに自己を内省し、よき社会人としてどのような生き方をしていくか、そのためには何をすれば良いかを考える場所と捉えるとよいでしょう。無理に答えを見つけ出す必要はなく、「今の自分はこうだ」というような気づきを得るだけでも問題ありません。また、就職活動を見据えて自己分析の機会とするのもよいでしょう。大切なことは自身を振り返り、将来の自分の生き方を考え、気づきを得ることです。そのため、セルフエグザミネーションは1度きりではなく、自らが置かれている環境の変化に応じてローバースカウト年代の8年の間に適宜実施し、自身を見つめ直す機会とすることを推奨します。

**セルフエグザミネーションには多くのやり方がありますが、
下記の4つのステップを例として示します。**

step 1 「ちかい」と「おきて」を再確認する

step 2 自分の経験を振り返る

step 3 集中できる場所で、一人で静かに考えてみる

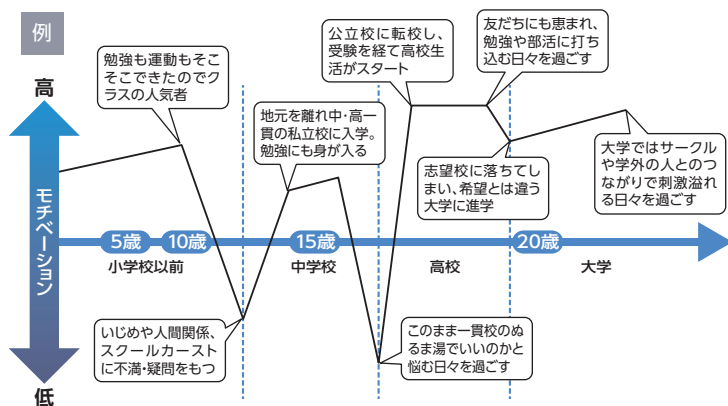
step 4 今後に向けた決意表明をする

ステップをこなすことが目的ではなく、ステップを通じて考え気づきを得ることが目的です。必要に応じてstep2.の振り返りを仲間と共に実施したり、時には実施する場所を変えてみるなど工夫をしてみてください。

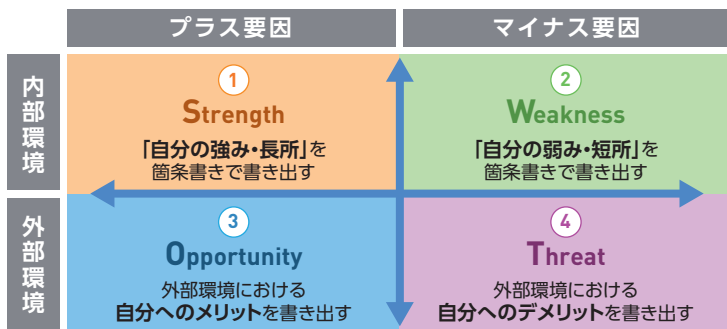
以下ではstep2.の振り返りで役立つフレームワークの例として、モチベーショングラフとSWOTを活用した方法を示します。

モチベーショングラフ

モチベーショングラフとは、過去の自分自身の出来事・体験を振り返り、時系列でのモチベーションの揺れ動きをグラフで表したものです。モチベーショングラフを作成することで、自分がどういったことでモチベーションが上がったり、下がったりするのかを可視化できます。自分という人間はどのような出来事をもとに形成され、どのような特性をもっているのか、理解するためのツールとして活用することが可能です。



SWOT(スウォット)分析



「強み(Strength)」、「弱み(Weakness)」、「機会(Opportunity)」、「脅威(Threat)」をそれぞれ掛け合わせることで、自分がローバースカウトとして活動していく方向性を明確にしていけることができます。

3-③ ローバースカウトの活動の進め方

■活動分野

探検
Exploring

共助
Cooperation

環境
Environment

国際
International

共創
Cocreation

■振り返りによる日々の改善

要 件

- ①ローバースカウト教育の目的7-30を満たす
- ②プロジェクトに継続性がある(期間×持続的アウトプット)

参画度

「主導する・協力する・参画する」の3段階評価 P14参照

●活動分野と活動例

ここで示す活動分野はローバースカウト活動を5つに分類したものです。これらを参考に自分の興味・得意・環境などを踏まえて活動の分野を考えてみましょう。

探検

自然の要素・自己と向き合い、自己の限界に挑戦する。

- 日本百名山登頂による心身鍛錬(継続的なPJT)
- 海外バックパック ●自転車で日本横断

共助

ボーイスカウトの他部門の活動や地域社会へ協力し、奉仕する。

- コロナ禍の自宅療養者を支えるための買い物代行プロジェクト、行政連携
- 地域の貧困家庭への支援 ●災害ボランティア参加
- 日赤各種講習会を修了し“そなえる” ●他隊への奉仕

環境

自然環境の重要性を理解し、地球環境保全について学び実践する。

- 植林と伐採の必要性をエリアごとに可視化すべくヒートマップ作成、NPO連携
- 森林インストラクターとしての環境保全に取り組む

国際

国際組織、国際社会の一員として、相互理解を深め、国際活動、国際協力について学び実践する。

- ネパールの小学校に複数のゴミ処理施設を設置、1つの学校の中での一連のゴミ処理サイクルを実現。現地小学生たちのゴミ処理意識を向上
- 難民支援 ●海外での就学就業経験 ●WSJでの奉仕

共創

体的な想いをもとに自己のスキルを活用し、他者と協力しながら新たな価値を創造する。

- ジャンボリー期間中の新たな交流プラットフォームとしてアプリ開発&提供
- 日本文化のマニアックな情報発信による観光活性化PJT ●大学ローバーの設立

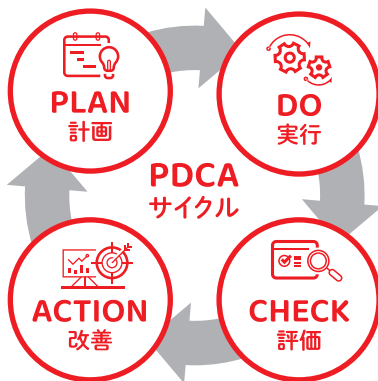
● 振り返りによる 日々の改善 (PDCA)

活動にあたっては参画度、ポイント、成果（結果、結果に至るまでのプロセス、本人の気づきと成長）などを振り返りながら活動し、評価を実施します。

十人十色なローバースカウト活動が存在する一方、それぞれのプロジェクトの評価反省については、個々人が主体的に実施する必要があります。この振り返りフォーマットは“日々の改善”を実現するために大きく寄与するものです。トライアンドエラーで活動をより良くしていくには、評価反省と次への計画が必要不可欠です。このように自身でPDCAを回すことで、プロジェクト期間中の改善および今後のプロジェクトや自身のキャリアへの学びを得ることが期待されます。

活動の実施にあたっては、次ページに記載したフォーマットを活用することをお勧めします。1つの活動に対して1回記入するのではなく活動の途中でも記入することでPDCAを加速させることができます。

また、最終の評価時は後輩にも活動がつながるように、報告も視野に入れて評価してください。より効果的な評価反省改善を実現するには、他者からのフィードバックが必要不可欠です。少なくとも1つのプロジェクトが終了した際には、ローバー隊長に対して自己評価も交えた報告を行い、指導者からのフィードバックを求めましょう。また、指導者からのみならずローバースカウト年代の仲間や団内指導者、保護者等からもフィードバックを得ることができれば、双方にとっての学びや刺激になるでしょう。



振り返りのフォーマット

ダウンロードは
こちらから



フォーマットと活用例

▼活動分野

探検

Exploring

共助

Cooperation

環境

Environment

国際

International

共創

Cocreation

▼活動内容

取り組む活動は？

森林保全のための間伐作業と間伐材を活用した啓蒙活動

その中での役割は？ きっかけは？

役割:活動の全体取りまとめ

きっかけ:活動をやっているNPOの人の話を聞く機会があった

何を目指した？ ※興味関心&社会ニーズ

事柄・対象:手入れが必要とされている森林

が

状態:放置されていることが社会問題化している状態

だった

目的:地域の荒れた森林を保全し森林資源の有効活用を促す

の為

目標:間伐作業の体験・間伐材を用いた活動・参加者の意識向上

を目指した

何をやった？

地域の自然教育施設で施設やNPOと協力しボーイスカウトから参加者を集め、間伐作業を体験する場を設定。森の1区画をボーイスカウトの力で整備し「スカウトの森」と愛称をつけて親しみやすく環境課題を知ってもらえる場とした。

また、実際に間伐材を用いてできる活動としてみんなからアイデアを出し合い、間伐材を使った盛大なキャンプファイヤーで親睦を深め、地域への貢献として間伐材を使った遊歩道整備を行う活動を企画し、実施した。

計画的に目標を達成するためにどのような取り組みをした？

対仲間/関係者：ローバーが忙しい人が多いので活動の内容を決める前に日時を決めて予定を空けてもらい、会議が長くならないよう役割分担と期限を明確にして進めた。またそれに合わせNPOの人にも前もって依頼し、余裕を持って運営できた。

対自分 やり切ると意思表示のため自分で出したプロジェクトのアイデアを公表して実施日時を最初に決めた。自分でも森林保全について調査し、理解を深めるようにした。チームメンバーに締切を守ってもらうため自分が率先して資料等を提示した。

目的・目標に対する達成具合は？問題点は？

他団体も巻き込んで無事終わることができた。一方で、社会問題をもとにした活動であるが、活動が主になってしまい参加者が社会問題に深く関心を持ってもらうところまでは至っていないと感じた。

自身はどう成長した？社会でどう活かせる？

隊長のアドバイスも受けて他団体との交渉の方法がわかった。win-winを意識した提案の方法はあらゆる場面で有用と思う。

次に目指すものは？未来に向けやるべきことは？

今回の取り組みをまとめて手段等も含めて公表し、他の地域でも同様の活動が展開できるように形に整える。

●振り返りのポイント

振り返り際には次の2つのポイントを意識しましょう。

①ローバースカウト教育の目的を満たすこと

②プロジェクトに継続性があること

ローバースカウト教育では永続的に社会奉仕に取り組む精神・体力・知見の育成を目指します。よって、個人の成長をプロジェクト活動の基軸にしつつも、プロジェクト自体も継続性があることが望まれます。プロジェクト実施期間はもちろんのこと、持続的なアウトプットにつながるプロジェクトが理想とされます。



●参画度

ローバースカウト活動においては、「主導する(Leader)、協力する(Collaborator)、参画する(Follower)」の3段階で自己の参画度合いを意識しながら活動に取り組みます。ローバー入隊直後はFollowerとしての活動が多くなると想定されますが、ゆくゆくはLeaderとしてプロジェクトを主導できるようになることを目指していきます。

自身の参画度を評価するためには、次ページに記載している世界スカウト機構(WOSM)の提唱するフレームワークにおいてどれだけの要素を満たしているか確認するとよいでしょう。

WOSMのリーダーシップフレームワーク

● WOSMによるリーダーシップ概論

世の中には多くのリーダーシップ論があり一律の定義は定まらない状況ですが、世界スカウト機構(WOSM)の有識者は、“リーダーシップはLeaderとFollowerの双方の関係のうえに成り立ち、かつゴールの設定と再設定により継続的に改善を進めるプロセスである”と指摘しています。スカウト活動における”行うことによって学び、日々の改善を行う”プロセスはまさに1つのリーダーシップとして捉えることができます。

● スカウト活動におけるリーダーシップモデル

上記のようなリーダーシップをスカウト活動の中で実現するにはどのようなスキルが必要となるのでしょうか。それを4つの軸で表したものが“Leadership in Scouting Model”です。それぞれの構成要素は、プロセスとしてのリーダーシップを実現するためにはいくつかのスキルセットが必要なることを示唆しています。



Purpose ビジョンを描き伝えるスキル

物事を他とは異なる視点で捉え、可視化し、それを他者に伝える能力

Process マネジメントスキル

計画力や組織を動かす力など、物事の実行に結びつけるためのプロセスの最適化能力

Others 対人スキル

有意義かつ建設的な方法で他者を巻き込む能力

Individual 自己管理スキル

行うことによって学び、どんな時でもモチベーションを欠かさず日々の改善に取り組む能力

活用できたスキルセットが1つ

Follower

活用できたスキルセットが2～3つ

Collaborator

活用できたスキルセットが4つ

Leader

これらの考え方はローバースカウト活動における“参画度”を自己評価する際に大きく役立つものです。リーダーシップを実現するうえで必要なスキルセットのうち、自身が幾つを発揮することができたか内省して参画度を冷静な視点で見つめ直しましょう。

参画度を高める“リーダーシップ”の考え方について

一言でリーダーシップと言っても、そのあり方は1つに留まりません。リーダーシップ論などの詳細の説明は多くの書籍が出ていますのでそちらを参照していただき、ここでは有名なサーバントリーダーシップについて概要を紹介します。

“サーバント”とは英語で召使の意味をもち、一見リーダーとは真逆のような単語です。しかしながらサーバントリーダーとは、自らがチームメンバーを支え奉仕することでチームを動かすような人物を表しています。このように、リーダーと言っても自らが先頭に立って他者を引っ張るようなリーダー像がすべてとは限りません。ローバースカウト活動のうえでも自身がどのようなリーダーシップを発揮しているか振り返ることには非常に大きな価値があります。



支配型リーダーシップ



サーバントリーダーシップ

4 個人の成長のための支援

ローバースカウトは、教育課程の最終段階にあるスカウトとして、成人指導者の支援やアドバイスを受けて、活動します。

指導者は主に次のような支援を実施します。

- それぞれのローバースカウトが個人の課題を認識し、個人の計画を立てることができるようにする。
- スカウトの視野の拡大、活動、責任感の枠を広げる。
- それぞれのローバースカウトが個人の活動、チームの活動、コミュニティの活動に参画できるようにする。
- 活動をより高度化できる機会を提供する。

ローバースカウトとローバー隊指導者は年少部門のように活動の場を用意してもらうという関係ではなく、協力関係にあります。その役割がうまく実行されるためにはスカウト自らが主体性をもって適切に指導者へ相談しながら活動を進めていくことが必要となります。

隊指導者は、自らが経験したことや知識を提供するだけでなく、その人脈やコミッショナーをはじめとする仲間、みなさんの活動に協力してくれる専門家と協同でアドバイスをを行います。



スカウト諸君

「ピーターパン」の劇を見たことのある人なら、海賊の首領が死ぬ時には、最後の演説をするひまはないにちがいないと思って、あらかじめその演説するのを、覚えているであろう。私もそれと同じで、今すぐ死ぬわけではないが、その日は近いと思うので、君たちに別れの言葉をおくりたい。

これは、君たちへの私の最後の言葉になるのだから、よくかみしめて、読んでくれたまえ。

私は、非常に幸せな生涯を送った。それだから、君たち一人一人にも、同じような幸福な人生を、歩んでもらいたいと願っている。

神は、私たちを、幸福に暮らし楽しむようにと、このすばらしい世界に送ってくださったのだと、私は信じている。金持ちになっても、社会的に成功しても、わがままができて、それによって幸福にはなれない。幸福の第一歩は、少年のうちに、健康で強い体をつくっておくことである。そうしておけば大人になった時、世の中の役に立つ人になって、人生を楽しむことができる。

自然研究をすると、神が君たちのために、この世界を、美しいものやすばらしいものに 満ち満ちた、楽しいところにおつくりになったことが、よくわかる。現在与えられているものに満足し、それをできるだけ生かしたまえ。ものごとを悲観的に見ないで、なにごとにも希望を持ってあたりたまえ。

しかし、幸福を得るほんとうの道は、ほかの人に幸福を分け与えることにある。この世の中を、君が受け継いだ時より、少しでもよくするように努力し、あとの人に残すことができたなら、死ぬ時が来ても、とにかく一生を無駄に過ごさず、最善をつくしたのだという満足感をもって、幸福に死ぬことができる。幸福に生き幸福に死ぬために、この考えにしたがって、「そなえよつねに」を忘れず、大人になっても、いつもスカウトのちかいとおきてを、堅く守りたまえ。神よ、それをしようとする君たちを、お守りください。

君たちの友 ベーデン・パウエル・オブ・ギルウェル



(これは1941年1月8日にベーデン・パウエルがなくなった後、彼の書きものの中から発見された)

参考文献

- 『スカウティング フォア ボーイズ』
- 『ローバーリング ツー サクセス』 ほか

詳しくはWEBサイトをご覧ください。



ローバースカウトハンドブック

令和6年7月 改訂第2版発行

発行  公益財団法人
ボーイスカウト日本連盟

〒167-0022

東京都杉並区下井草4-4-3

電話：03-6913-6262（代表）

URL：<https://www.scout.or.jp>

MEMO

ROVER SCOUT HANDBOOK

ローバースカウト
ハンドブック



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN